

## 損保ジャパン SRIオープン 〈愛称〉未来のちから

第15期（決算日 2019年12月9日）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	①日本の株式に投資します。 東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとし、中長期的にこれを上回る運用成果を目指します。 ②企業の社会的責任に着目します。 ③相対的に割安と評価される銘柄に投資します。	
主要投資対象	損保ジャパンSRIオープン	損保ジャパンSRIマザーファンド受益証券
	損保ジャパンSRIマザーファンド	わが国の株式
主な組入制限	損保ジャパンSRIオープン	株式への実質投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	損保ジャパンSRIマザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、「損保ジャパンSRIオープン」は、このたび第15期の決算を行いましたので、運用状況をご報告申し上げます。  
 今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル

URL <https://www.sjnk-am.co.jp/>

お問い合わせ先

TEL クライアントサービス第二部 0120-69-5432  
 （受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			T O P I X		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税金分配	み騰落	騰落	騰落			
	円	円	%		%	%	%	百万円
11期(2015年12月8日)	11,278	1,000	8.3	1,568.73	8.4	98.2	—	1,560
12期(2016年12月8日)	11,302	500	4.6	1,512.69	△3.6	94.7	—	1,573
13期(2017年12月8日)	11,544	1,000	11.0	1,803.73	19.2	97.1	—	1,567
14期(2018年12月10日)	10,077	0	△12.7	1,589.81	△11.9	96.6	—	1,378
15期(2019年12月9日)	10,657	0	5.8	1,722.07	8.3	96.9	—	912

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万口当たり(以下同じ)。

(注3) 株式組入比率および株式先物比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		T O P I X		株式組入比率	株式先物比率
	騰落	騰落率	(東証株価指数)	騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2018年12月10日	10,077	—	1,589.81	—	96.6	—
12月末	9,556	△5.2	1,494.09	△6.0	97.2	—
2019年1月末	10,133	0.6	1,567.49	△1.4	98.1	—
2月末	10,162	0.8	1,607.66	1.1	98.3	—
3月末	9,938	△1.4	1,591.64	0.1	96.7	—
4月末	10,193	1.2	1,617.93	1.8	97.0	—
5月末	9,312	△7.6	1,512.28	△4.9	96.5	—
6月末	9,671	△4.0	1,551.14	△2.4	96.9	—
7月末	9,570	△5.0	1,565.14	△1.6	98.2	—
8月末	8,946	△11.2	1,511.86	△4.9	98.0	—
9月末	9,657	△4.2	1,587.80	△0.1	96.6	—
10月末	10,195	1.2	1,667.01	4.9	96.8	—
11月末	10,451	3.7	1,699.36	6.9	96.9	—
(期末)						
2019年12月9日	10,657	5.8	1,722.07	8.3	96.9	—

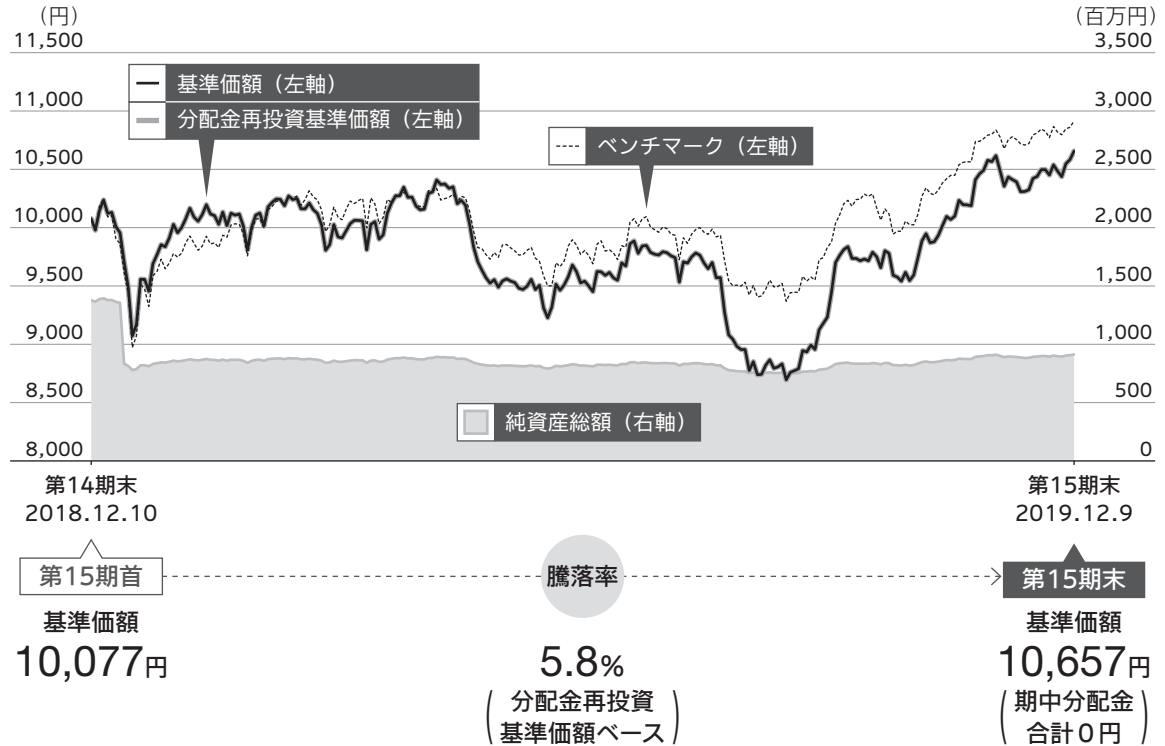
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 株式組入比率および株式先物比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

## 運用経過

## ● 基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2018年12月10日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

## ● 基準価額の主な変動要因

### 損保ジャパンSRIオープン

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額が上昇しました。

### 損保ジャパンSRIマザーファンド

期中の騰落率は+7.3%となりました。

国内株式市場が上昇したため、期を通して株式を高位に組入れていたマザーファンドの基準価額も上昇しました。個別銘柄では、日本電信電話、KDDI、三井物産、西松建設、日立製作所、三菱地所などがプラスに寄与しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

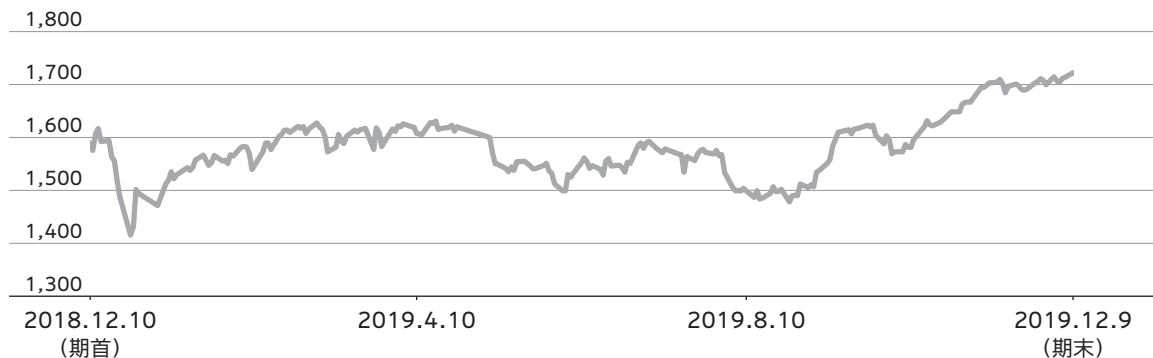
 ベビーファンド    マザーファンド

## ● 投資環境

TOPIXは8.3%の上昇となりました。

期初は、米国の追加利上げをきっかけとした世界経済の先行き不安から急落しました。2019年明けにはFRB（米連邦準備理事会）の金融政策運営姿勢の柔軟化、中国による景気刺激策の発表等から反騰局面となりましたが、米欧の中央銀行による市場予想を上回る緩和姿勢を受けて米国長期金利が急低下し、景気後退が連想されたために株価の上値は重くなりました。その後は、米中の貿易摩擦激化に関する報道や世界的な金融緩和期待を手がかりに下落と上昇を繰り返す展開となりました。9月には国内外の長期金利の上昇、円安進行を好感した割安株の上昇が牽引し、国内株式市場は主要海外株を大きくアウトパフォームした後、10月以降は米中通商協議への進展期待や、日米企業の決算発表が本格化する中で業績底打ちへの期待の高まりを背景に続伸しました。

TOPIX（東証株価指数）の推移



(出所：Bloomberg)

## ● 当該投資信託のポートフォリオ

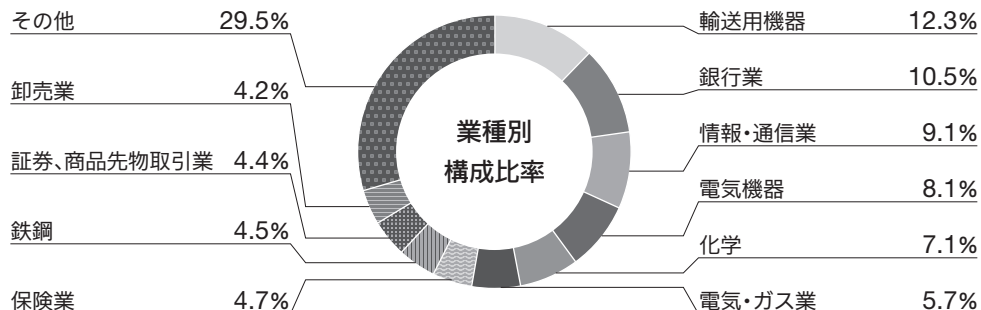
期を通して損保ジャパンSRIマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率（対純資産総額比）は、99.2%です。

### 損保ジャパンSRIマザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、97.7%です。

期末時点での業種別構成比率はグラフのとおりです。

当期間中に独自の調査分析に基づく割安度にしたがって銘柄入れ替えを行いました。主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、大阪瓦斯、小松製作所、AGCなど、主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、野村ホールディングス、三菱商事、ツムラなどです。

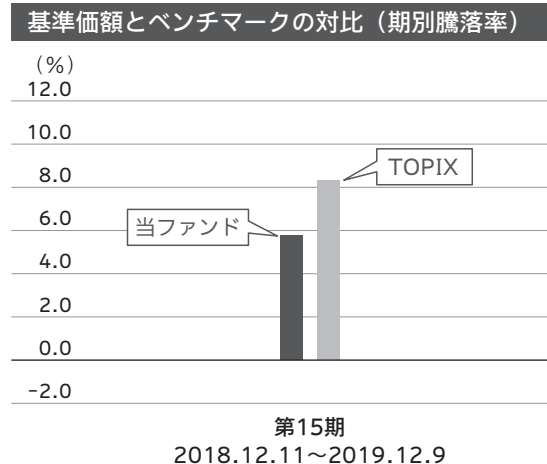


注1. 比率は、第15期末における国内株式の評価総額に対する各業種の評価額の割合。

注2. 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。

## ● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの騰落率（分配金再投資基準価額ベース）は、ベンチマーク（TOPIX）の騰落率（+8.3%）を2.6%下回りました。当ファンドは期を通じて「損保ジャパンSRIマザーファンド」を高位に組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。



### 損保ジャパンSRIマザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、TOPIX（配当込み）の騰落率（+11.1%）を3.8%下回りました。

ベンチマークとの差異を要因分析しますと、業種要因は、小売業、食料品のアンダーウェイト、精密機器のオーバーウェイトなどがプラス要因、証券、商品先物取引業、鉄鋼、銀行業のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄要因では、三井物産、KDDIのオーバーウェイト、日産自動車のアンダーウェイトなどがプラス要因、シチズン時計、セイコーエプソンのオーバーウェイト、野村ホールディングスの期間前半のオーバーウェイトおよび期間後半のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。

## ● 分配金

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、当期は分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第15期 2018.12.11~2019.12.9
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,328

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

**決算期におけるファンドの運用成果<sup>※</sup>をもとに、分配を行うことを目指すファンドです。**

※ 運用成果には、インカム収入とキャピタルゲイン・ロスの両方を考慮します。

インカム収入とは株式の配当収入等、キャピタルゲイン・ロスとは値上がり益・値下がり損をいいます。

・ ファンドに蓄積された過去の運用成果（分配原資）を加味する場合があります。



## ● 今後の運用方針



### 損保ジャパンSRIオープン

今後もマザーファンド受益証券の組入水準を高位に維持することで、信託財産の中長期的に着実な成長を目指します。



### 損保ジャパンSRIマザーファンド

今後も「CSR（企業の社会的責任）」に先進的に取り組んでいる企業の中から、当社独自の投資価値分析に基づき相対的に割安度の高い銘柄へ投資することで、リスクを軽減しつつ信託財産の中長期的に着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

## ● 1万口当たりの費用明細

項目	第15期 2018.12.11~2019.12.9		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	162円	1.645%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は9,815円です。
( 投信会社 )	( 75 )	( 0.768 )	ファンドの運用の対価
( 販売会社 )	( 75 )	( 0.768 )	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
( 受託会社 )	( 11 )	( 0.110 )	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	14	0.139	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株式 )	( 14 )	( 0.139 )	
(c) その他費用	0	0.004	(c) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
( 監査費用 )	( 0 )	( 0.003 )	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
( その他 )	( 0 )	( 0.000 )	信託事務の処理にかかるその他の費用等
<b>合計</b>	<b>176</b>	<b>1.788</b>	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

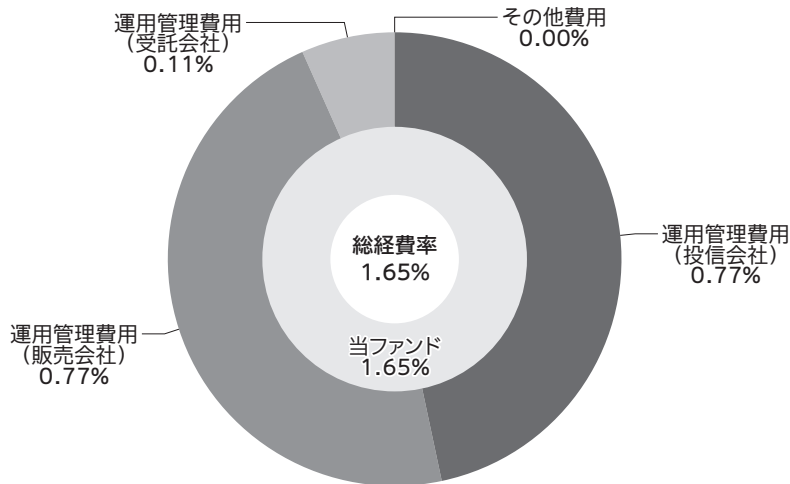
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.65%**です。



注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2018年12月11日～2019年12月9日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
損保ジャパンSRIマザーファンド	千口 2,350	千円 5,030	千口 236,172	千円 519,840

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 金額は受渡代金。

## ○株式売買比率

(2018年12月11日～2019年12月9日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	損保ジャパンSRIマザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	1,154,478千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	818,393千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.41	

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2018年12月11日～2019年12月9日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2019年12月9日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
損保ジャパンSRIマザーファンド	千口 613,112	千口 379,290	千円 905,972

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 当ファンドは、当期末において、直接投資をする株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

## ○投資信託財産の構成

(2019年12月9日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
損保ジャパンSRIマザーファンド	千円 905,972	% 98.5
コール・ローン等、その他	13,790	1.5
投資信託財産総額	919,762	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年12月9日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	919,762,755
コール・ローン等	13,789,983
損保ジャパンSRIマザーファンド(評価額)	905,972,772
(B) 負債	6,790,840
未払解約金	218
未払信託報酬	6,776,983
未払利息	13
その他未払費用	13,626
(C) 純資産総額(A-B)	912,971,915
元本	856,662,118
次期繰越損益金	56,309,797
(D) 受益権総口数	856,662,118口
1万口当たり基準価額(C/D)	10.657円

(注1) 信託財産に係る期首元本額1,368,166,435円、期中追加設定元本額3,507,301円、期中一部解約元本額515,011,618円

(注2) 期末における1口当たりの純資産総額 1.0657円

## ○損益の状況 (2018年12月11日～2019年12月9日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 10,096
支払利息	△ 10,096
(B) 有価証券売買損益	62,136,242
売買益	68,083,841
売買損	△ 5,947,599
(C) 信託報酬等	△ 13,909,914
(D) 当期損益金(A+B+C)	48,216,232
(E) 前期繰越損益金	4,305,606
(F) 追加信託差損益金	3,787,959
(配当等相当額)	( 36,392,844)
(売買損益相当額)	(△ 32,604,885)
(G) 計(D+E+F)	56,309,797
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	56,309,797
追加信託差損益金	3,787,959
(配当等相当額)	( 36,398,342)
(売買損益相当額)	(△ 32,610,383)
分配準備積立金	163,106,878
繰越損益金	△110,585,040

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程(2018年12月11日～2019年12月9日)は以下の通りです。

項 目	2018年12月11日～ 2019年12月9日
a. 配当等収益(費用控除後)	22,016,074円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	0円
c. 信託約款に規定する収益調整金	36,398,342円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	141,090,804円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	199,505,220円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	2,328円
g. 分配金	0円

## ○お知らせ

- ・投資信託の監査にかかる費用を適切に反映させるため、2020年1月から、監査費用の徴収方法を変更することと致しました。
- ・受益者の利益に資すると考え、投資信託約款の「受託者の自己または利害関係人等との取引」の追加等の変更を行いました(2019年7月1日)。

# 損保ジャパンSRIマザーファンド

## 運用報告書

第15期（決算日 2019年12月9日）

<計算期間 2018年12月11日～2019年12月9日>

損保ジャパンSRIマザーファンドの第15期の運用状況をご報告申し上げます。

### ■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限
運用方針	信託財産の長期的成長を目指して、積極的な運用を行います。 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）をベンチマークとします。
主要投資対象	わが国の株式
主な組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		TOPIX（東証株価指数）		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	円	騰 落 中 率	（配当込み）	騰 落 中 率			
11期(2015年12月8日)	20,872	9.9	2,185.03	10.5	99.2	—	百万円 1,545
12期(2016年12月8日)	22,251	6.6	2,153.40	△1.4	95.7	—	1,557
13期(2017年12月8日)	25,121	12.9	2,622.46	21.8	98.1	—	1,550
14期(2018年12月10日)	22,259	△11.4	2,361.60	△9.9	97.6	—	1,364
15期(2019年12月9日)	23,886	7.3	2,623.16	11.1	97.7	—	905

(注1) 基準価額は1万円当たり（以下同じ）。

(注2) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	TOPIX (東証株価指数)		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率
		騰 落 率	(配当込み) 騰 落 率		
(期 首)	円	%		%	%
2018年12月10日	22,259	—	2,361.60	—	97.6
12月末	21,073	△ 5.3	2,223.11	△ 5.9	98.2
2019年1月末	22,389	0.6	2,332.52	△ 1.2	99.0
2月末	22,483	1.0	2,393.08	1.3	99.2
3月末	22,012	△ 1.1	2,395.21	1.4	97.6
4月末	22,612	1.6	2,434.82	3.1	97.7
5月末	20,672	△ 7.1	2,275.96	△ 3.6	97.5
6月末	21,503	△ 3.4	2,338.89	△ 1.0	97.8
7月末	21,308	△ 4.3	2,360.18	△ 0.1	99.1
8月末	19,933	△10.4	2,280.58	△ 3.4	98.9
9月末	21,558	△ 3.1	2,418.29	2.4	97.5
10月末	22,803	2.4	2,539.02	7.5	97.6
11月末	23,409	5.2	2,588.40	9.6	97.7
(期 末)					
2019年12月9日	23,886	7.3	2,623.16	11.1	97.7

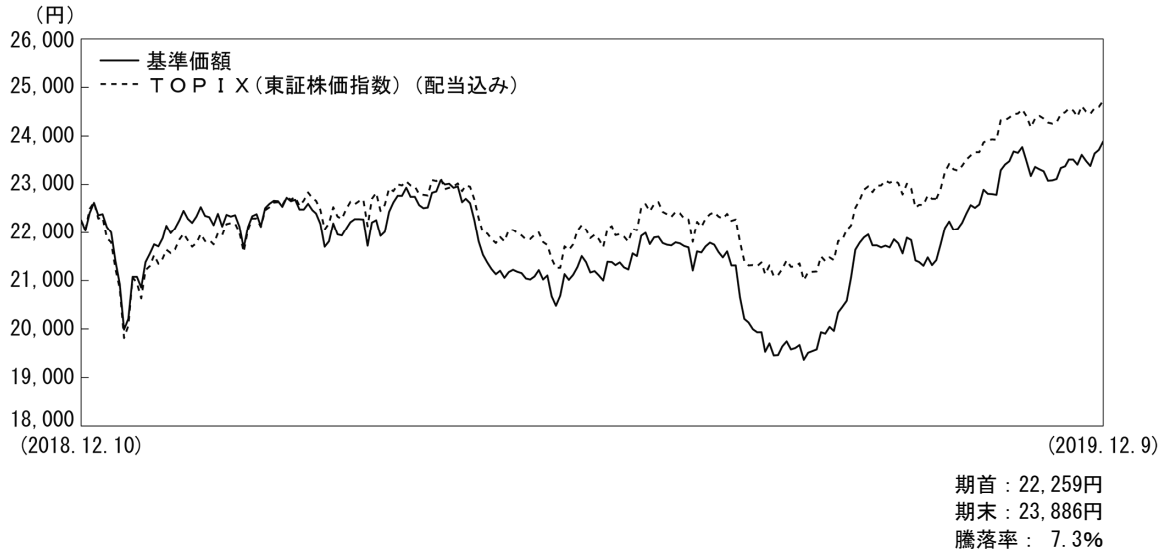
(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

○運用経過

(2018年12月11日～2019年12月9日)

■基準価額の推移



・ベンチマーク（TOPIX（東証株価指数）（配当込み））の推移は、2018年12月10日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

P 2～P 8 をご参照下さい。

○1万口当たりの費用明細

(2018年12月11日～2019年12月9日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 31 (31)	% 0.140 (0.140)	(a) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	0 ( 0 )	0.000 (0.000)	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	31	0.140	
期中の平均基準価額は21,812円です。			

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



○売買及び取引の状況

(2018年12月11日～2019年12月9日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上場	千株 202	千円 339,922	千株 552	千円 814,555

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2018年12月11日～2019年12月9日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	1,154,478千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	818,393千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.41

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2018年12月11日～2019年12月9日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年12月9日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>建設業 (3.0%)</b>			
西松建設	—	10.5	26,649
<b>繊維製品 (1.0%)</b>			
東レ	8.4	11.7	8,683
<b>化学 (7.1%)</b>			
クラレ	3.3	—	—
J S R	—	3.1	5,921
三菱ケミカルホールディングス	—	16.1	13,316
D I C	9.9	7	21,070
日東電工	1.6	3.6	22,140
<b>医薬品 (2.0%)</b>			
ツムラ	18.8	5.5	17,710
<b>石油・石炭製品 (1.1%)</b>			
J X T Gホールディングス	—	19.4	9,694
<b>ゴム製品 (0.6%)</b>			
住友ゴム工業	—	4	5,668
<b>ガラス・土石製品 (3.1%)</b>			
A G C	—	6.8	27,098
<b>鉄鋼 (4.5%)</b>			
日本製鉄	—	6.8	11,876
ジェイ エフ イー ホールディングス	25.7	18.8	28,068
<b>非鉄金属 (4.2%)</b>			
住友電気工業	36.5	22	36,707
<b>機械 (3.9%)</b>			
小松製作所	—	11.3	30,397
日本精工	6.5	4.2	4,519
<b>電気機器 (8.1%)</b>			
日立製作所	8.5	3.4	14,592
三菱電機	13.6	7	10,797
セイコーエプソン	30.6	20.6	35,205
パナソニック	9.9	10.8	11,421
京セラ	1.1	—	—
<b>輸送用機器 (12.3%)</b>			
豊田自動織機	1.7	—	—
デンソー	11.6	4.6	22,871
いすゞ自動車	—	8.3	10,877
トヨタ自動車	6.8	2.8	21,644
アイシン精機	5.4	—	—
マツダ	30.2	4.1	3,977

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
本田技研工業	20.3	12.8	40,204	
ヤマハ発動機	3	3.9	8,962	
<b>精密機器 (4.1%)</b>				
シチズン時計	57.4	59.7	36,596	
<b>電気・ガス業 (5.7%)</b>				
東京瓦斯	—	4.8	12,782	
大阪瓦斯	1.5	17.9	38,037	
<b>海運業 (—%)</b>				
商船三井	4	—	—	
<b>情報・通信業 (9.1%)</b>				
日本電信電話	14.1	7	39,088	
K D D I	23.5	12.9	41,163	
<b>卸売業 (4.2%)</b>				
三井物産	34.7	18.6	36,781	
三菱商事	15.7	—	—	
<b>小売業 (2.2%)</b>				
J . フロント リテイリング	—	7.3	10,847	
セブン&アイ・ホールディングス	—	2.2	8,969	
<b>銀行業 (10.5%)</b>				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	102.1	61.5	36,131	
三井住友トラスト・ホールディングス	10.3	5.4	22,858	
三井住友フィナンシャルグループ	16	8.4	33,726	
みずほフィナンシャルグループ	38	—	—	
<b>証券、商品先物取引業 (4.4%)</b>				
大和証券グループ本社	105	70.5	38,838	
野村ホールディングス	133.2	—	—	
<b>保険業 (4.7%)</b>				
MS&ADインシュアランスグループホールディングス	4	1.3	4,724	
第一生命ホールディングス	34.3	20.1	36,843	
<b>その他金融業 (1.5%)</b>				
リコーリース	7.5	3.2	13,456	
<b>不動産業 (2.7%)</b>				
三菱地所	36.4	12	24,150	
合 計	株 数 ・ 金 額	891	541	885,065
	銘柄数 < 比率 >	37	41	< 97.7% >

(注1) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2019年12月9日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	885,065	97.7
コール・ローン等、その他	20,926	2.3
投資信託財産総額	905,991	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年12月9日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	905,991,325
コール・ローン等	20,607,367
株式(評価額)	885,065,080
未収入金	318,878
(B) 負債	82
未払利息	19
その他未払費用	63
(C) 純資産総額(A-B)	905,991,243
元本	379,290,284
次期繰越損益金	526,700,959
(D) 受益権総口数	379,290,284口
1万口当たり基準価額(C/D)	23,886円

(注1) 信託財産に係る期首元本額613,112,820円、期中追加設定元本額2,350,138円、期中一部解約元本額236,172,674円

(注2) 期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託ごとの元本の内訳

    損保ジャパンSRIオープン 379,290,284円

(注3) 期末における1口当たりの純資産総額 2.3886円

○損益の状況 (2018年12月11日～2019年12月9日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	28,393,634
受取配当金	28,400,650
その他収益金	83
支払利息	△ 7,099
(B) 有価証券売買損益	27,661,046
売買益	73,748,733
売買損	△ 46,087,687
(C) 保管費用等	△ 1,774
(D) 当期損益金(A+B+C)	56,052,906
(E) 前期繰越損益金	751,635,517
(F) 追加信託差損益金	2,679,862
(G) 解約差損益金	△283,667,326
(H) 計(D+E+F+G)	526,700,959
次期繰越損益金(H)	526,700,959

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。